

別添 1

基本評価シート  
様式

(京都府 農村振興課)

## 基本評価シート（ニホンジカ）

### 1. 事業の基本情報

事業名（※1）	令和2年度指定管理鳥獣捕獲等業務（京都・南丹）		
都道府県名	京都府	担当者部・係名	農林水産部農村振興課
担当者名	小栗 勇太	担当者連絡先	075-414-5022
捕獲実施事業者	（一社）京都府猟友会 ※認定済	予算額（※2）	22,000,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	22,000,000 （うち、当該事業分 9,526,000円）

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

### ○令和2年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

#### 〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
90頭	74頭	82%

#### 〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	目標生息頭数	
97,000頭（令和元年度）	45,000頭（令和3年度）	
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲（個体数調整）
8,121頭（令和2年度）	16,756頭（令和2年度）	0頭

特定計画管理目標

目標段階	雄雌	頭数
① (前年度の捕獲頭数以上)	オス	13,100 頭
	メス	9,500 頭
②	オス	15,000 頭
	メス	11,000 頭
③	オス	29,000 頭
	メス	21,000 頭

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

府単独の個体群管理事業は実施していない。

## 2. 令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>京都府におけるニホンジカ（以下、シカという。）の分布状況は、市街地を除く府内ほぼ全域で、近年ではこれまでシカが生息していなかった北部地域の丹後半島へも拡大している。</p> <p>府では、人とシカの共存を図ることを目的に平成5～7年度の3年間、府内一円で実施した生息状況調査等に基づき、平成8年度にシカ適正管理指針を策定し、平成9年度から同指針に基づく個体数管理の一環としてメスジカの狩猟獣化に取り組んできた。平成12年度には同指針に基づき、平成9年度から実施したモニタリング調査の結果を踏まえ、特定鳥獣保護管理計画－ニホンジカ（第1期）を策定し、個体数管理を行うと同時に地域ぐるみの防除対策に努めてきた。平成29年4月からは第5期計画となる第二種特定鳥獣管理計画－ニホンジカを策定し、さらなる対策を推進している。</p> <p>第二種特定鳥獣管理計画では、シカの推定生息頭数を平成27年度時点で約81,000～91,000頭と推定し、これを令和3年度に半減することを管理目標としている。目標達成のための年間捕獲目標頭数は、シミュレーションによりメス15,000頭とし、前計画の年間捕獲目標である12,000頭よりもさらに捕獲対策を強化しているところである。また、平成23年度から恒久型防護柵の整備を進め、被害の防止に努めている。</p> <p>府内のシカによる農作物被害は令和2年度に7千3百万円と過年度から減少傾向にあったものの近年横ばいで推移しており、対策の効果は出ているものの、なお甚大な被害が発生している。この他にも、シカの食害により森林の下層植生が衰退する等、森林生態系等へも深刻な影響を及ぼしている。また、シカの生息域の拡大等に伴い交通事故など生活環境被害も発生している。そこで、平成26年5月に法改正により創設された「指定管理鳥獣捕獲等事業」を活用し、府が事業主体となって、生息個体数に対して捕獲が十分に進んでいない地域を対象とし、捕獲事業を実施することとする。</p> <p>なお、特定計画においては、狩猟及び有害鳥獣捕獲の実施に加えて、指定管理鳥獣捕獲等事業を策定し、生息密度が高く、捕獲が進んでいない地域において、市町村と連携して捕獲を推進することとしている。</p> <p>※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置づけも記載する。</p>
	<p>【選択欄】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<input type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和3年1月27日～令和3年3月26日
実施区域	<p>比較的生息密度が高く、地元から捕獲要望が高い地域である（添付図1）。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入</p> <p>※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<p>〈府広域振興局及び関係市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、警察署、狩猟者への説明及び周知</li> <li>・捕獲に係る各種許可等の申請にあたっての指導等</li> </ul>
事業の捕獲目標	<p>( 82%達成)</p> <p>= ( 74 実績値) / ( 90 目標値)</p>

捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他（                                      ）
捕獲個体の確認方法	<p>【わな猟】</p> <input type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他（                                      ）
捕獲個体の処分	<p>※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可</p> <p>捕獲個体の身体の一部（耳、尾など）</p> <input checked="" type="checkbox"/> 写真（詳細を記載：捕獲個体の右半身にスプレーで捕獲個体番号を記載の上、捕獲者・捕獲日・捕獲従事者番号・捕獲場所・個体番号を記載した黒板等と共に写真を撮影する。） <input type="checkbox"/> その他（                                      ） <p>※複数チェック可。</p> <p>捕獲個体の処分について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 <p>※複数チェック可</p>
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
安全管理の体制	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：                      ） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 <p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 <p>鉛製銃弾について</p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。 <p>緊急事態発生の連絡がなされてから、指導監督者の直接の指示により、指導監督者又は捕獲従事者等のうち2名以上が、捕獲事業実施区域へ1時間以内に到着する。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> <p>捕獲従事者数：33人  （内訳）  正規雇用者：0人、期間雇用者：0人                      日当制：33人</p>

### 3. 令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

#### ○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標達成】	<p>評価：捕獲目標達成率は82%（目標90頭に対して、捕獲数74頭）で、捕獲数の目標はおおむね達成された。</p>
	<p>改善点：仕様書上の必要数量と実際の数量を比較すると、仕様書では140人日以上捕獲に従事するところを実際は182人日従事した。仕様書より多く捕獲作業に費やしたものの、目標の8割程度の捕獲頭数に留まっていることから目標頭数はやや過大だったといえる。</p> <p>ただし、事業開始前と今年度捕獲事業終了後に実施したセンサーカメラ調査の結果を比較すると、捕獲実施区域の生息密度が31.9頭/km<sup>2</sup>から26.5頭/km<sup>2</sup>と低下が見られているため一定の成果はあったと考えられる。</p>
【実施期間】	<p>評価：実施期間は約2か月間であった。指定管理鳥獣捕獲等事業は契約日から実際の捕獲作業に入るまで2か月の準備期間を確保することが望ましい。十分な準備を行うことで安全な捕獲が実施できるためである。また、捕獲期間中に対象動物の生息状況に応じて実施日や期間を選択することで捕獲効率の向上につながる。本事業では捕獲回数（7日）と対象区域の面積を考えると、準備時間を十分に確保するために1月上旬での契約が望ましい。また、契約から捕獲開始までの期間は約2週間であり、管理上十分な時間が取れていたか検討の余地が残った。</p>
	<p>改善点：来年度は準備期間および捕獲実施期間を十分に確保できるように、余裕のある実施期間を設定することが必要となる。</p>
【実施区域】	<p>評価：本区域はセンサーカメラ調査によって、シカの生息密度が31.9頭/km<sup>2</sup>と推定されており、中～高程度の密度の区域であると考えられる。住民からの要望がある区域でもあることから、適当な区域であったといえる。</p>
	<p>改善点：今後も実施区域を設定する際は、被害状況や住民からの要望、生息状況についての情報を事前に十分に収集することが必要となる。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：巻狩りによる捕獲を実施した。捕獲数は74頭、CPUは0.47頭/人日であった。当該区域のある狩猟メッシュおよびその周辺部における、平成30年度～令和2年度の銃猟（狩猟）のCPUEは0.27頭/人日および0.22頭/人日であったことから、狩猟に比べて約1.7～2.1倍のCPUE値を示した。よって、一般的な捕獲者に比べれば効率的な捕獲が実施できたといえる。その要因として、事前調査の実施と逃走個体の取り逃が</p>

	<p>しを防ぐ十分な人数の射手の配置、射撃技術の高い捕獲者の従事があったことが挙げられる。</p> <p>改善点：捕獲作業の成果は捕獲それ自体だけでなく、事前調査によっても大きく影響される。一方で、事前調査に労力をかけすぎると捕獲効率は上昇しても、費用対効果の低下を招く可能性もある。しかし、どの程度事前調査を行えば、費用対効果が最も高まるのかという事前調査と捕獲にかける労力の適正なバランスは明確になってはいない。今後はそれらの適正なバランスを明らかにするとともに、必要な事前調査の量を仕様書で規定することも検討すべきだと考えられる。また、捕獲者からの報告では1日ごとの目撃数や発砲数、捕獲数が記録されているが、今後の従事人数の妥当性等を検討するためにも、捕獲場所ごと（巻き狩りであれば、ラウンドごと）の報告を義務付けるべきである。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：調査事業と捕獲事業を別発注とし、異なる事業者が各事業を実施した。</p> <p>改善点：特に問題点はない。</p>
【個体処分】	<p>評価：評価：重機により埋設穴を掘削し、捕獲個体を埋設した。また、一部の個体については捕獲地点にて埋設を実施した。法律に従い適切な処理がされた。</p> <p>改善点：捕獲対象区域は、ツキノワグマの生息域である。そのような場所では大量の捕獲個体を埋設すると、最終埋設までの間にツキノワグマを強く誘引する危険性がある。今回はツキノワグマ冬眠期のため不要であったが、活動期に実施の場合は電気柵等によるツキノワグマの誘引対策を実施することを仕様書に定めるべきである。また、埋設穴に多量の水が溜まっている事で、しつかりとした埋設が出来ていないため埋設穴に蓋をする等の改善が必要である。</p>
【環境配慮】	<p>評価：一部非鉛弾を使用した。鉛中毒症例の把握のための取り組みはされていない。半矢個体数について記録されており、鉛弾の影響把握を行っている。</p> <p>改善点：鉛中毒防止のため、今後は非鉛弾の使用を推進する。</p>
【安全管理】	<p>評価：作業開始前後のミーティングを適切に実施した。埋設穴に侵入防止ロープを張り、第3者への配慮が見られた。</p> <p>改善点：来年度も引き続き安全管理の徹底を義務付ける。</p>
3. その他の事項に関する評価及び改善点	

記録様式には捕獲や目撃地点のメッシュ番号や地点に関する欄が定められておらず、これらの情報は報告されていない。適正な評価および記録を行うためにも、これらの点について定めた仕様書や記録様式が必要となる。

捕獲個体記録は、幼獣と思われる写真があるにも関わらず記録上は全て成獣となっている。捕獲個体の性年齢は、今後の増加率に係る重要な情報のため、正確に記録する事が求められる。

捕獲事業受託者においては、指定の記録様式に従い、適切に業務の報告がなされた。

#### 4. 全体評価

計画面では、目標達成度、実施期間、実施区域などから総合的に判断し、適切な事業設計がなされたといえる。ただし、記録方法については仕様書の変更を検討すべきである。

捕獲作業面では、適切な実施体制の下で事故なくおおむね目標を達成できたことから、適切な捕獲作業が実施できたといえる。

捕獲作業後も、依然として中程度の生息密度であることから、引き続き捕獲を促進する必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

令和元年度の府全域の捕獲目標数 26,000 頭（メス 15,000 頭、オス 11,000 頭）に対して、本事業が占める割合は 0.29%と寄与の程度は高くない。事業実施区域に限れば今年度実施されたセンサーカメラ調査で推定された生息密度と事業面積から、対象区域の個体数は 206 頭と推定される。本事業によって対象区域の約 36%のシカを除去したことになる。このことから、事業実施区域に限っては、個体数削減に寄与したといえる。

#### 4. 必須となる記録項目

##### (1) データの整備状況

##### ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと	
	<input type="checkbox"/> 事業区域ごと	
	<input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ	
	<input type="checkbox"/> 1 km メッシュ	
	<input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度）	
	<input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数	



	<input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ( )	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

#### イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
GPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> GPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

#### (2) 実施結果（必須となる記録項目）

##### ア) 捕獲努力量に関する事項

##### ①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 216 人日

事前調査人日数概数※2： 34 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 182 人日

（作業時間に関わらず作業した日は1日と計上した。）

項目	令和2年度 (事業年度の値)	令和元年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	<京都・南丹区域> 159 人日	実施せず	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： 人日

事前調査人日数概数※2： 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 人日

項 目	（事業年度の値）	（前年度の値）	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日 数）	実施せず	実施せず	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和2年度 (事業年度の値)	令和元年度 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	<京都・南丹区域> 74 頭	実施せず	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② 目撃数	<京都・南丹区域> 171 頭		<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	<京都・南丹区域> 0.72		<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	<京都・南丹区域> 0		<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(銃器)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 <sup>※1</sup>	CPUE <sup>※2</sup>	SPUE <sup>※3</sup>
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り	74 頭	159 人日	0.47 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	1.08 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2 : CPUE=捕獲数／のべ人日数

※3 : SPUE=目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和元年 (事業年度の値)	平成 30 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input type="checkbox"/> くくりわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE＝捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数：9 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数：0 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

処理状況を埋設場所、もしくは焼却施設において場所が判別できるよう、捕獲個体を写真に記録する。

捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。